



タケエィグループ CSR報告書

2018

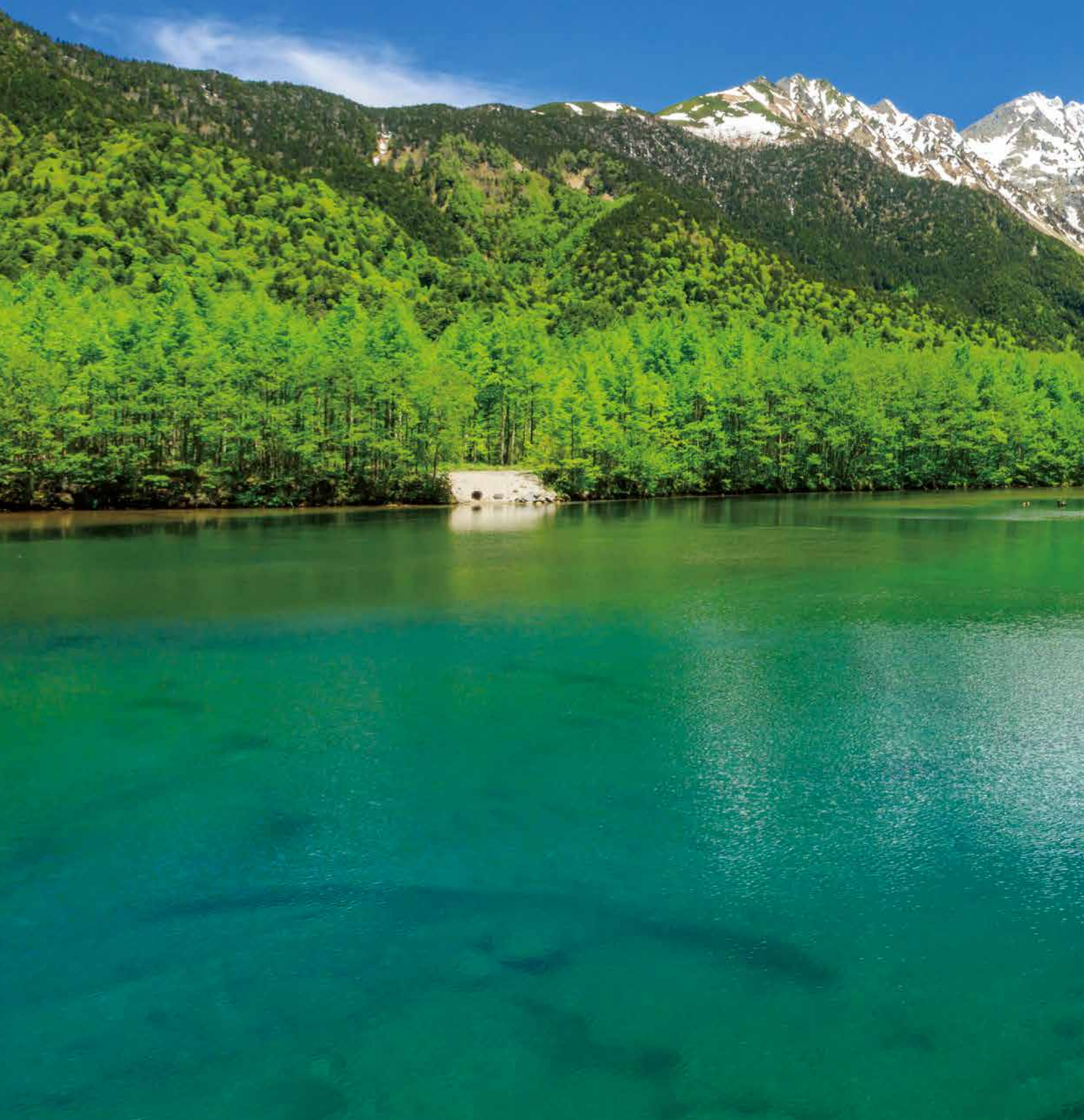
Only One Earth



経営理念

資源循環型社会への貢献を目指す

自然との調和、地域住民との共生を基調として、環境負荷の低減を前提とした
資源の循環的活用の社会システム形成に貢献するために、
顧客ニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実を推進する。



CONTENTS

経営理念	01
編集指針	02
会社概要	03
事業概要	04
トップメッセージ	05

タケエイグループの価値向上プロセス 07

座談会 地域課題の解決に向けた地産地消の バイオマス発電スキーム	09
--	----

タケエイグループが進める 再生可能エネルギー事業	14
-----------------------------	----

タケエイグループのCSR

タケエイグループのCSR	15
経営体制	16

環境のために

環境とのかかわり	17
環境目標と実績	18
タケエイグループの再資源化ソリューション	19
事業活動に伴う環境負荷	21
環境負荷低減活動	22
エコ・ファーストの取り組み	23

社会のために

お客さまのために	25
社員のために	27
安全・衛生のために	29
地域・社会とのかかわり	31

タケエイグループについて

事業ハイライト	33
事業拠点	34

編集指針

本報告書は、持続可能な社会の実現に向けてタケエイグループの事業が担う役割を紹介するとともに、CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)に対する活動実績を3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から報告することで、当社グループの取り組みを全てのステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えすることを狙いとじています。

免責事項

本報告書に含まれる将来に関する記述については、記述した時点で入手できた情報や計画に基づいているため、諸与件の変化によって異なる結果になることがあります。
読者の皆さまには、あらかじめご了承くださいませようようお願い申し上げます。

報告対象期間

2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

※一部上記期間以外の内容も含んでいます。

報告対象組織

原則としてタケエイグループ((株)タケエイおよび子会社26社)を対象としています。タケエイグループ全体を対象としていない報告は、個々に対象範囲を記載しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

発行日

2018年9月(次回予定2019年9月)

本報告書に関するお問合せ先

株式会社 タケエイ CSR推進部 ISO推進グループ
〒105-0011
東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階
TEL:03-6361-6836 FAX:03-6361-6839

会社概要(2018年6月末現在)

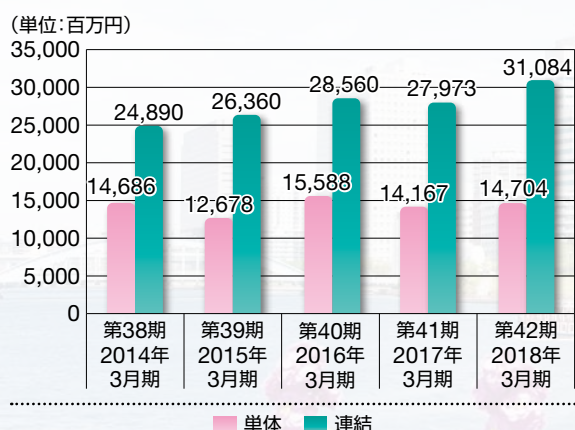
タケエグループでは各地の企業と積極的に連携を深め、事業領域と事業地域を拡充しています。これにより、お客さまの多様なニーズに最適なソリューションサービスをお届けできる体制づくりを進めています。

会社名	株式会社 タケエイ
代表者	代表取締役社長 山口 仁司
設立年月日	1977年3月7日
資本金	6,640百万円
所在地	東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階 TEL:03-6361-6830(代表) FAX:03-6361-6835
従業員数	単体 610名 連結 1,264名
上場取引所	東京証券取引所市場第1部

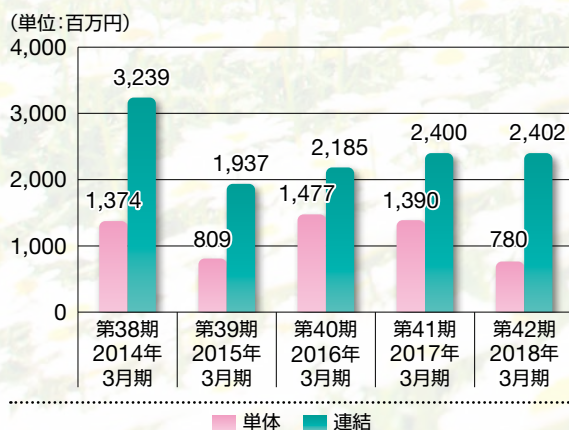
事業推移

タケエグループでは、「総合環境企業」の実現に向けて、廃棄物処理・リサイクル関連事業に加え、非廃棄物分野の再生可能エネルギー、環境エンジニアリング、環境コンサルティングの各事業に注力してきました。この結果、2017年度の連結売上高は31,084百万円(前連結会計年度比11.1%増)、営業利益は2,402百万円(同0.1%増)、経常利益は2,292百万円(同0.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,356百万円(同9.0%増)となりました。

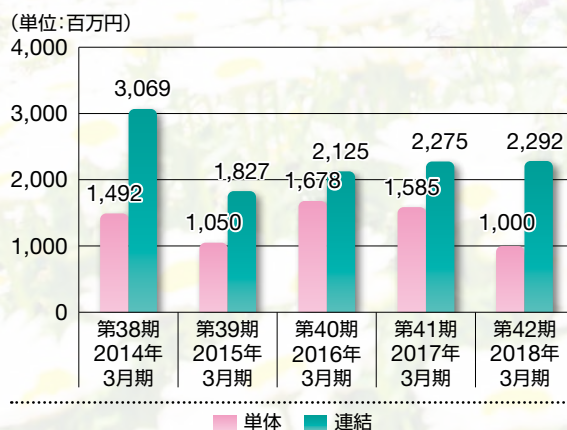
売上高



営業利益



経常利益



事業概要

廃棄物分野

建設廃棄物処理・リサイクル	マテリアルリサイクル	ランドフィル(最終処分場)
<p>建設工事や解体工事等から発生する建設混合廃棄物を中心に、各種の機械設備や再資源化施設による徹底したリサイクルを行っています。</p>  <p>(株)タケエイ(手選別風景)</p>	<p>廃石膏ボードや鉄・非鉄スクラップ、工場から排出される廃液など特定の品目は、再資源化の品質と効率性を高めるため、その品目に特化したリサイクル工場で処理しています。</p>  <p>(株)タケエイメタル(圧縮されリサイクルされる金属類)</p>	<p>タケエイグループでは安定型最終処分場および管理型最終処分場を保有しています。いずれも、法令や条例等の規制を遵守するとともに、徹底した水質管理を行っています。</p>  <p>(株)北陸環境サービス(管理型最終処分場)</p>

非廃棄物分野

再生可能エネルギー	環境コンサルティング	環境エンジニアリング
<p>間伐材や剪定枝などの未利用材を活用し発電するバイオマス発電事業や、最終処分場の跡地を有効活用した太陽光発電事業などにより、地域・自然環境に貢献できる発電事業を行っています。</p>  <p>(株)花巻バイオマスエナジー(バイオマス発電所)</p>	<p>社会問題となっている有害廃棄物等の測定・分析や適切な処理の提案・コンサルティングなどを通じ、お客さまのニーズに応えます。</p>  <p>環境保全(株)(分析風景)</p>	<p>環境装置や特殊車両の開発・製造・販売を行っています。廃棄物処理に関するノウハウに機械設計のノウハウを融合・発展させ、新たな環境装置の開発を進めます。</p>  <p>富士車輛(株)(RPF製造設備)</p>

タケエイは、「売り手よし・買い手よし・世間よし」に
「環境よし」を加えた『四方よし』を目標に、
地域や社会にさらなる貢献を果たしてまいります。



代表取締役会長
三本守

代表取締役社長
山口仁司

我が国は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を2年後に控えるほか、来年はラグビーワールドカップが初めて開催されることにもなっており、競技場関連施設、宿泊施設等の建設や山手線新駅設置など交通インフラの整備が進んでおります。

世界に目を向けますと、昨年12月末、中国が廃プラスチックや古紙等の輸入を厳しく制限しました。これら資源ごみのリサイクルを中国への輸出に頼ってきた我が国を含む世界各国は、東南アジア諸国へ輸出先を変更するなど対応を図っておりますが、抜本的解決策は未だ見つかっておりません。

このような状況に対して、当社は、再生可能エネルギー部門において、これまで活用が難しかった建設廃棄物に含まれる廃プラスチックや古紙からRPF(古紙および廃プラスチック類を主原料とした固形燃料)を製造する技術の開発に取り組んでおります。再利用されず焼却や埋立処分するしかなかった廃棄物から燃料を作り出すことで、3R(Reduce=廃棄物の発生抑制、Reuse=再利用、Recycle=再資源化)の推進にも寄与してまいります。

また、同じ再生可能エネルギー部門では、地球温暖化を引き起こすCO₂排出に対して、カーボンニュートラルな木質バイオマス発電事業に引き続き重点を置いております。既に開業している(株)津軽バイオマスエナジー、(株)花巻バイオマスエナジーの2発電所に続いて、神奈川県横須賀市、秋田県大仙市でも発電施設の建設工事が進捗しております。さらに、(株)津軽バイオマスエナジー・(株)津軽エネベジにおきましては、発電時に発生する熱エネルギーを利用した高糖度トマトの栽培に成功し、販売を開始しました。バイオマス発電に伴う熱エネルギーを有効活用する事例は全国でもあまり例がなく、モデルケースのひとつになっていくと考えております。

グループ各社を含む各地域の廃棄物処理施設等においても、地元との円滑な関係構築を図りつつ、循環資源である廃棄物のリサイクルを推し進め、環境負荷の低減による環境にやさしい事業運営に努めてまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に伴うインフラ整備工事が一段落したとき、総合環境企業としての私どもの真価が問われます。私どもタケエイは、「三方よし(売り手よし・買い手よし・世間よし)」に「環境よし」を加えた『四方よし』を目標とし、資源循環型社会への貢献を目指して弛まぬ努力を重ねてまいります。

代表取締役会長 **三本 守**

代表取締役社長 **山口 仁司**

リサイクル、そして再生可能エネルギー。 タケエイグループは成長を続けます。

タケエイグループは、資源循環型社会への貢献を目指し、廃棄物の適正処理を推進する「廃棄物分野」、再生可能エネルギー事業、環境分析や環境装置等の開発を行う「非廃棄物分野」の2つを柱として、事業を展開しています。廃棄物処理における総合的なソリューションサービスの提供や、地産地消型の木質バイオマス発電事業などを通じて社会的課題の解決に取り組むことで、企業価値の向上を目指していきます。

社会の変化

- 廃棄物の再生資源としての循環利用および環境負荷の低減に対するニーズの高まり
- オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の再構築に伴う廃棄物の増加
- 廃棄物処理法の強化
- エネルギーの安定供給に向けた再生可能エネルギーのニーズの高まり
- パリ協定の締結に伴う地球温暖化対策への関心の高まり

廃棄物の適正処理・ 再資源化のノウハウ



(株)タケエイ 物流車両基地

廃棄物を、種類・形状・排出場所などに応じた最適な車両で収集し、リサイクル工場まで運搬します。



(株)タケエイ 東京リサイクルセンター

さまざまな選別設備や再資源化設備を導入することで、徹底したリサイクルを行っています。

経営理念 **資源循環型社会への貢献を目指す**

タケエグループの事業

廃棄物分野

建設廃棄物処理
リサイクル

マテリアル
リサイクル

ランドフィル
(最終処分場)

非廃棄物分野

再生可能
エネルギー

環境
コンサルティング

環境
エンジニアリング

再生可能エネルギーの
地産地消スキーム



「総合環境企業」

ステークホルダーにもたらす価値

お客さま

- ・さまざまなニーズを解決

地域住民

- ・安全な生活環境の確保
- ・地域課題の解決

株主・投資家

- ・経営の安定
- ・成長と利益の還元

取引先

- ・対等で公正な関係

社員

- ・安全で働きやすく、働きがいのある環境の提供



(株)津軽バイオマスエナジー 平川発電所
間伐材などの未利用材を活用したバイオマス発電を行っています。



(株)津軽エネベジ
バイオマス発電で発生した熱エネルギーを農業へ有効活用しています。

地域課題の解決に向けた地産地消の バイオマス発電スキーム

2015年12月、タケエイグループ第一号となる(株)津軽バイオマスエナジーが稼働を開始しました。同社は、地元企業をはじめとした多くの方々のご協力により、燃料となる未利用材の収集・発電・電力の供給までを地元で行う、エネルギーの「地産地消」を実現しました。今回、当事業のキーパーソンとなったの方々をお招きし、当時のお話やこれからの展望をうかがいました。



銀座農園株式会社
飯村 一樹 様

平川市議会事務局
相馬 昌幸 様

株式会社 津軽バイオマスエナジー
奈良 進

株式会社 タケエイ
大山 清悦

津軽バイオチップ株式会社
中村 弘様

有限会社 白川林産
白川 秋徳 様

株式会社 タケエイ
西原 礼

バイオマス発電事業のきっかけ

司会 まずは、廃棄物処理業者であったタケエイが、どうして津軽地方でバイオマス発電事業を始めることとなったのでしょうか？

大山 タケエイでは、津軽地方での事業計画を、当初から発電事業と決めていたわけではありません。最初は平川市から「りんごの剪定枝の野焼きをどうにかしたいのだけれど、廃棄物処理業者として何か良いアイデアはないか？」という相談を受けたのが始まりでした。これが発電事業に結び付いたのは、中村社長との出会いのおかげでした。

中村 当時、バイオマス研究所というチームを作って、バイオマスについて検討していました。りんごの剪定枝の処理をバイオマス発電に活かせないか、という話になったことが発電事業に進んでいったきっかけでした。

大山 その後、中村社長のお声かけで、約50の事業者や団体の方々に集まっていただいて津軽新エネルギー事業研究会を立ち上げました。会合を重ねていくうちに、平川市にも参加いただけるようになったのが、本当に力強い後押しになりました。

地域の課題解決を目指した バイオマス発電事業

司会 平川市でりんごの剪定枝の野焼きが問題になっていたということですが、どのような状況だったのでしょうか？

相馬 剪定枝は、昔は薪ストーブの燃料として使用していたのですが、今は石油ストーブが普及していますから需要もなく、ほぼ全て野焼きするという状況でした。ご存知のように野焼きは山林火災の原因にもなりますし、燃やすことで環境に対しても悪い影響があります。また、りんごの剪



白川 秋徳 様
有限会社 白川林産
代表取締役社長

定枝のほかにも、山林の間伐材も悩みの一つでした。

白川 津軽地方には間伐材の処理をする工場がありませんし、県南(八戸)の方まで行かないと買い手もいません。移送費用などを考えると採算があわず、間伐材はそのまま山に放置されていたのです。

相馬 放置された間伐材が集中豪雨や地震などで流出してしまうと大災害になりかねませんので、防災面でも懸念がありました。ですから、この地域にバイオマス発電所ができれば、こうした間伐材やりんごの剪定枝の問題も解決できますし、さらに雇用にもつながります。平川市としてはぜひ実現してもらいたいプロジェクトでした。

司会 発電用の燃料については、当初から間伐材やりんごの剪定枝だけで十分な量を確保できる見込みがあったのでしょうか？

白川 それが、なかなか難しかったのです。それまで間伐材は山に放置していましたが、それを一転して、年間7万2千トンもの量を集める必要がでてきました。そこで2つの森林組合、8つの森林事業者を集めて協定を結び、木質チップの製造事業へも株主として出資していただくことで協力体制を整え、ようやくその数量を集める目途がつかしました。

大山 森林事業者との協定をはじめとして、いろいろな業種の方、立場の方が、発電事業全体のスキームを連携してやっていこうということが、この発電事業の特徴的な部分であると思います。

いくつもの存在が協力、 つながりあったエネルギー事業

司会 このエネルギー事業の全体像について、改めて説明していただけますか。

奈良 まずは間伐材ですが、津軽地方の森林組合や森林事業者の方々が間伐材を持ってきてくれます。りんごの剪定枝については、地元のりんご農家の方から集めています。これらを発電所に隣接する津軽バイオチップ(株)(以下、津軽BC)の工場で木質チップにして、(株)津軽バイオマスエネルギー(以下、津軽BE)の発電所で燃やし、蒸気を作ってタービンを回して発電しています。現在、津軽BEでは1時間に6,250キロワットの発電が行われています。発電した電力はタケエイグループの小売電気事業者であ



奈良 進
株式会社 津軽バイオマスエネルギー
代表取締役社長



る(株)津軽あつぷるパワーを通じて、平川市内の小中学校13校や公共施設等に使用していただいたり、この発電事業に強い関心を持って出資参画していただいた青森県民生協、コープあおもり、みやぎ生協の店舗施設や、LPガス販売大手である(株)サイサンを中心とした環境意識の高い方々に売電したりしています。

司会 地元の未利用材を活用して発電を行い、その電気を地元で使用する。まさに電力の地産地消というスキームが完成したのですね。

奈良 そのとおりです。ただ津軽BEの場合、熱効率が27%しかなく7割以上の熱エネルギーが失われてしまっているという課題がありました。だったらその熱を有効活用できないかということで、現在(株)津軽エネベジ(以下、エネベジ)では、銀座農園(株)に栽培ノウハウを教えたいただきながら、熱エネルギーを利用した高糖度トマトのハウス栽培を行っています。

熱エネルギーを利用した農業

司会 発電過程で発生する熱エネルギーを、高糖度トマトの生産に有効活用しているわけですね。熱エネルギーを利用したハウス栽培というのは、どういったものなのでしょうか？

奈良 ハウス栽培に利用しているのは、発電の際に発生する熱エネルギーの1つである温水です。発電を行う際に、タービンを回すのに使用した蒸気を冷やした水が温水となって排出されます。この発電所のある土地はもともと農業振興地域で、周りは農地に囲まれていますので、この温水を農業に利用したら良いのではないかと考えました。雪が深く農業ができない冬期に温水を使った季節農業、つまりハウス栽培ができないか。いろいろ検討を進める中で、銀座農園(株)から、高糖度トマトの生産というご提案をいただきました。

司会 なぜ、高糖度トマトだったのでしょうか？

飯村 高糖度トマトを選んだのには、3つほどポイントがあります。

まず、トマトは年間2,700億円という非常に大きなマーケットがあります。その中で高糖度トマトのマーケットはまだまだ小さく、今後マーケットがどんどん広がっていくと考えられます。しかもマーケット内では、まだライバルが少ないというメリットもあります。

もう一つのメリットは雇用面です。比較的軽作業のため、女



(株)津軽バイオマスエナジーで発生する温水は隣接する(株)津軽エネベジのビニールハウスに送られ、雪の積もる冬期でも高糖度トマトの苗は元気に育ちます。



飯村 一樹 様

銀座農園株式会社
代表取締役社長

性でも仕事が可能なのです。発電に関連した作業は男性がメインとなる仕事が多いですが、エネベジでは女性の働く場を提供できるというのが2つ目のポイントです。

3つ目は、季節要因です。首都圏や日本の南の方で採れる高糖度トマトのほとんどは冬の間に育てて春から夏にかけて出荷しますが、ここ津軽地方では7月から11月頃までと非常に長い期間の出荷が見込めました。これも大きなメリットになります。この3つのポイントを踏まえて、高糖度トマトをお薦めしました。

奈良 実際にエネベジでは、2月に苗を植え付けして順調に成長すれば、5月の中旬から収穫できます。この高糖度トマトは12月末まで収穫ができますので、8ヶ月間栽培・収穫することができます。

司会 これまでは失われていた熱エネルギーを、上手に活用されているのですね。熱エネルギー以外にも利用できるものはあるのでしょうか？

奈良 現在、焼却灰の利用についても地元の大学と研究を進めています。1日250トン程度の木質チップを燃やせば、その0.3%、だいたい700~800キロくらいの焼却灰が出ます。とてもきれいな焼却灰ですので、地元の大学やセメント企業と一緒に、コンクリート材への活用を目指しています。

拡がるバイオマス発電事業の波及効果

司会 今回のバイオマス発電事業のスキームは、原料となる間伐材の収集、発電、電気の利用、温水を活用した高糖度トマト栽培など、一連の行程が地域に根ざしたかたちで行

われていますね。こういったスキームについて、地域に対しての波及効果をどのようにお感じになっていますか。

奈良 バイオマス発電の地域に対する波及効果は、ほかの方法で再生可能エネルギーを作るよりも大きいと考えています。

例えば太陽光発電や風力発電は、あまり雇用につながりません。しかし、バイオマス発電の場合は、立ち木を伐採して運ぶ人、丸太をチップにする人、電気を創る人など、多くの方々に働いていただくことが必要です。ここでは、森林事業者で新たな雇用が20人、津軽BCのチップ工場では25人、津軽BEの発電所で21人、エネベジの農業で8人の雇用が生まれました。この発電事業によって、合わせて70数名が津軽地方で新たに働く場を得たことになります。雇用面だけでなく、さらに従業員が地元でお金を消費するということも考えると経済的な波及効果は大きいと思います。

白川 林業の面からですと、この発電事業のスキームを始めてから、林業に携わる多くの方々が活性化しています。実際に仕事量が増加して雇用も増え、新しい機械の導入にもつながっています。生産性は今後さらに上がっていくと思います。

奈良 環境面では、伐採するときのチェーンソーや間伐材を運ぶときのトラックの燃料くらいしか化石燃料を使っておらず、二酸化炭素の排出量が非常に少ない。津軽BEが1時間に6,250キロワットを発電することで、火力発電所で化石燃料を燃やして6,250キロワット発電する際に排出される二酸化炭素量を抑制したと考えることができます。こうした、地域、地球環境への貢献が知られるようになって、地元の方々も敬意を払ってくれるようになったと実感しています。

継続していける事業として大切なこと

中村 地元の人からよく言われるのは、「この発電事業を行うことで山の木がなくなってしまうのではないか」ということです。そうならないためには、間伐した後の植林をきちんと行っていく必要があると思います。例えば、山の管理は植林部隊、切るこ



中村 弘 様
津軽バイオチップ株式会社
代表取締役社長

とは伐木部隊と、役割分担をして効率よくやっていくのが良いのではないかと思います。自分たちでしっかり山を守

りながら、長い期間続けていける事業として展開していくことが大切です。

相馬 平川市では、市内に豊富に存在するバイオマスの利活用を推進して地域を活性化し、循環型社会の構築等を目指すバイオマス産業都市構想を推進しています。その中心に位置するバイオマス発電事業は、雇用についての影響も大きいことから、平川市としても引き続き応援していければと考えています。実際に津軽BE、津軽BCでは従業員の3分の2以上、エネベジで3分の1以上について市内の方を雇用していただきました。この雇用に対しましては、市の雇用協定を締結しています。

本事業には平川市からも出資させていただいていますが、市としても、地元雇用の増加や林業の活性化といった地域の経済活性化のためにも、ぜひバイオマス産業都市構想と合わせてもっともっと広く活動を拡げていっていただければと思います。



相馬 昌幸 様
平川市議会事務局
事務局長

飯村 高糖度トマトの生産が2年目に入り、現時点では作業のスピードや技術の熟練度を高めていくことを課題としていますが、その次には加工という工程の課題もありますし、その先に観光という面も考えていかなければと考えています。一次産業から三次産業。最近よく一次、二次、三次を掛け合わせた六次化ということが言われますが、この場所を起点に生産、加工、観光までいけるようになると、農地や農業振興地域の新たな活用、新しい事業が生まれるのかなと考えています。ぜひお手伝いをさせてもらえればと思っています。



美味しい高糖度トマト栽培の妨げとなる病気や害虫を防ぐため、ビニールハウス内では全身作業着と帽子を着用して見学を行います。

奈良 失われている熱エネルギーの有効活用については、全体の数パーセントにとどまっています、まだまだ利用が可能な状況です。高糖度トマトのように事業として成り立つものをこれからも積極的に発掘し、新たな作物に取り組みたいという想いがあります。

また、高齢化が進んでいるために農地を手放したいという地元の方もけっこういらっしゃいます。ですからそのような農地を活用することで、農業の面でもっと地域に貢献していければと思っています。

電力事業のさらなる展開

司会 今回、津軽地方での発電事業のお話を皆さんにお聞きしましたが、タケエイでは、ここでの成功がきっかけとなって、別の地域でも同様の発電事業スキームを計画しています。そのあたりについても少しお聞かせください。



大山 清悦

株式会社 タケエイ
エネルギー事業部顧問

大山 まず、これまで静脈産業である産業廃棄物処理業を行っていたタケエイという会社が、この平川市でインフラの第一線である発電事業を始めたということは、会社にとっても本当に大きな転換だったと思います。

ここを一つのモデルケースとして、タケエイはいま、5カ所で発電事業を展開・計画しています。

岩手県花巻市では、(株)花巻バイオマスエナジーが2017年の2月から発電事業を開始しています。これは花巻市にも出資していただいて、津軽BEと同じようなスキームで発電をしています。ここ津軽地方での成功がモデルになっています。

次に完成を目指しているのが、秋田グリーン電力(株)です。場所は秋田県大仙市。平川市・花巻市よりもバージョンアップした、発電量7,050キロワットの発電所を計画しておりまして、2019年2月頃から売電が開始できる見込みです。



発電所のすぐ隣では木材が粉碎され、大量の木質チップが製造されています。



(株)津軽バイオマスエナジーでは、木質チップを燃やした熱により蒸気を発生させ、その蒸気の圧力でタービンを回し発電しています。

また、タケエイの基幹事業である産業廃棄物処理業と非常に関連のある、剪定枝や廃棄物を原料とした発電事業も神奈川県横須賀市で現在進捗中です。これは剪定枝を燃料として年9万トンくらいを使う想定で進めておりますが、2019年度中を目処に売電を開始できる予定です。こちらも横須賀市にご縁をいただきながら現在進めているところなんです。

さらに、福島県田村市でも計画を進めており、2019年度末には売電を開始する予定です。

タケエイの新たな顔として

司会 今後、総合環境企業としてのタケエイが目指すべきものは、どういったところになるとお考えでしょうか？



司会

西原 礼

株式会社 タケエイ
CSR推進部部长

奈良 先ほど中村社長もおっしゃったように、持続的に事業を続けていくためには、原料となる樹木を再生させて循環させるということ

とがいちばん大事です。木を倒したら、植えて元に戻す。そうやって、タケエイが目標としている循環型社会に向かっていくことが、大切になってくると思います。

大山 津軽地方におけるりんごの剪定枝や間伐材のように、それぞれの地域には固有の廃棄物問題があります。バイオマス発電で電気の地産地消を実現するとともに、地域の課題解決に微力ながらも役立てたこの経験を活かし、今後も地域課題の解決に積極的に取り組んでいきます。最後になりますが、本日いらっしゃった方々を始め、たくさんの方にご協力をいただいて、ここ津軽地方のバイオマス発電所を最初に成功させることができ、タケエイが今このような事業ができるようになったことに対して、心より感謝を申し上げたいと思います。

司会 皆さま、本日はありがとうございました。

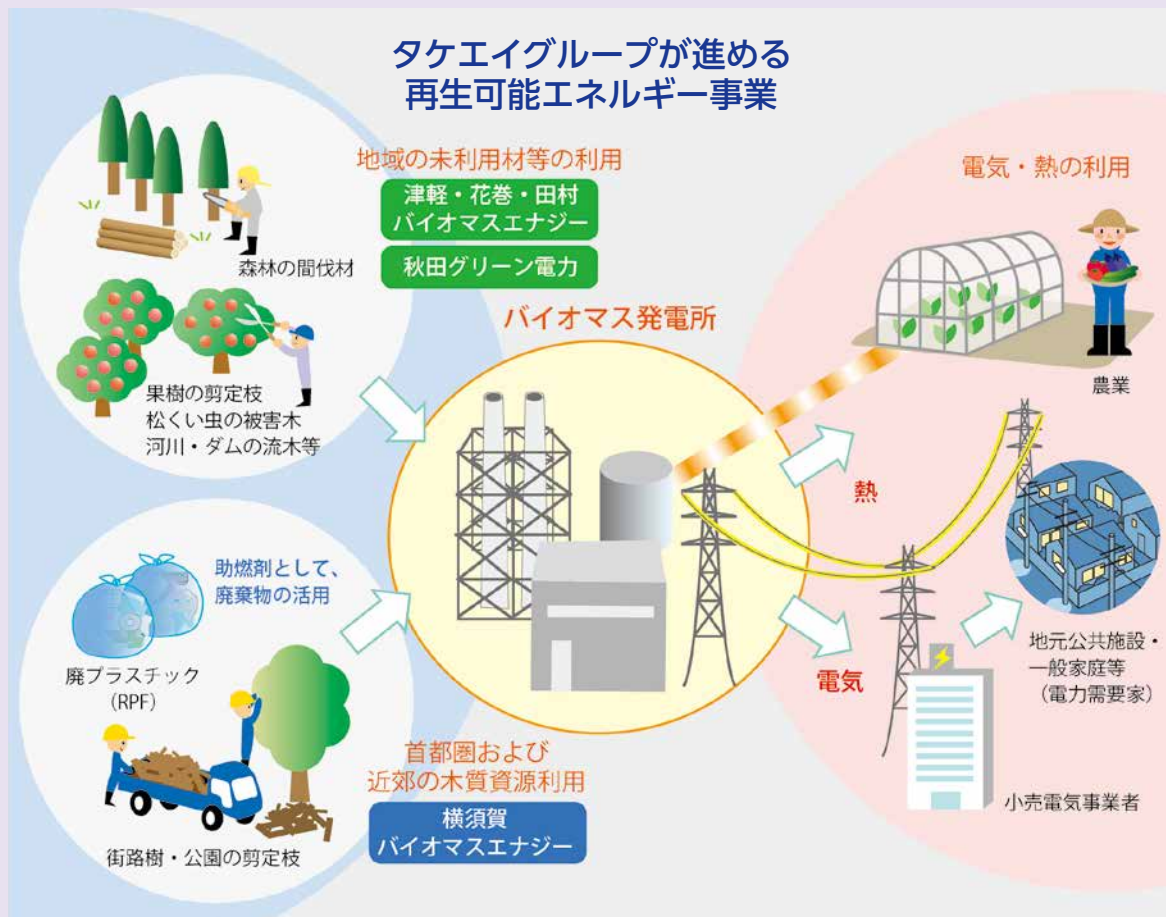
タケエイグループが進める再生可能エネルギー事業

今回特集でご紹介した(株)津軽バイオマスエナジー（青森県平川市）では、燃料となる未利用材の収集を地元企業と協力して行い、発電した電力も地元を中心に供給することでエネルギーの「地産地消」を実現しました。現在は、発電の過程で発生する熱エネルギーを活用した高糖度トマト栽培にも取り組んでいます。2017年2月には、同社のスキームをもとに(株)花巻バイオマスエナジー（岩手県花巻市）が稼働を開始しました。

さらに当社グループでは、(株)横須賀バイオマスエナジー（神奈川県横須賀市）、秋田グリーン電力(株)（秋田県大仙市）、(株)田村バイオマスエナジー（福島県田村市）の3つのバイオマス発電事業を計画中です。とりわけ(株)横須賀バイオマスエナジーは、首都圏および近郊の公園や街路樹の伐採木・剪定枝、造園業や建設業から排出される廃木材、さらには廃棄物由来の廃プラスチックを原料としたRPF*も燃料として活用する「都市型バイオマス発電」を進めています。

タケエイグループは、地域の特徴を活かした新たな地産地消スキームのバイオマス発電事業を展開していきます。

*RPF: Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料(出典:一般社団法人日本RPF工業会)



(株)津軽エネベジの高糖度トマト

(株)津軽エネベジでは、甘みが強くリコピン豊富な「アイコ」という品種の高糖度トマトを栽培しています。冬期には隣接するバイオマス発電所で発生する温水を暖房として活用しているほか、アイメック農法(親水性膜を使ったフィルム栽培)による低農薬栽培を行っており、環境にも人にもやさしいトマトです。地元である青森県平川市のスーパーをはじめ、市内にも出荷しています。



タケエイグループのCSR

タケエイグループは、総合環境企業としての社会的責任(CSR)を果たすため、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。また、ステークホルダーの皆さまの期待に応えることで、さらなる企業価値の向上を目指します。

● タケエイグループの企業行動規範

タケエイグループは、環境事業を営む企業として遵守すべき行動指針を「タケエイグループ企業行動規範」に定めています。社員一人ひとりが日常業務において実践・行動し、企業の社会的責任を果たすことで、グループの発展に努めていきます。

タケエイグループ企業行動規範

私たちは、環境事業を営む企業としての社会的責任を自覚し、すべての法令を誠実に遵守するとともに、社会的良識をもって、次のとおり行動します。

1. お客様第一主義で行動します
2. 環境とのバランスに配慮します
3. 企業情報を適宜適切に提供します
4. 公正な競争を行います
5. 作業現場における安全の確保に努めます
6. 個性と能力を活かせる職場の形成に努めます
7. 反社会的勢力に対し、利益を供与しません

タケエイグループ企業行動規範は、ホームページで全文を公開しています。
<http://www.takeei.co.jp/takeei03.html>

● ステークホルダーとのかかわり

タケエイグループの事業は、お客さま、株主、社員、取引先、行政および地域住民の方々等、さまざまなステークホルダーとのかかわりの中で成り立っています。

事業活動における法令遵守、雇用の創出、安全確保、環境保全、地域社会への貢献等、ステークホルダーの皆さまからの期待に応え、信頼関係を築くことが重要と考えています。今後もさまざまな形で対話を深め、その評価やご意見を経営に反映すべく取り組みを重ねていきます。



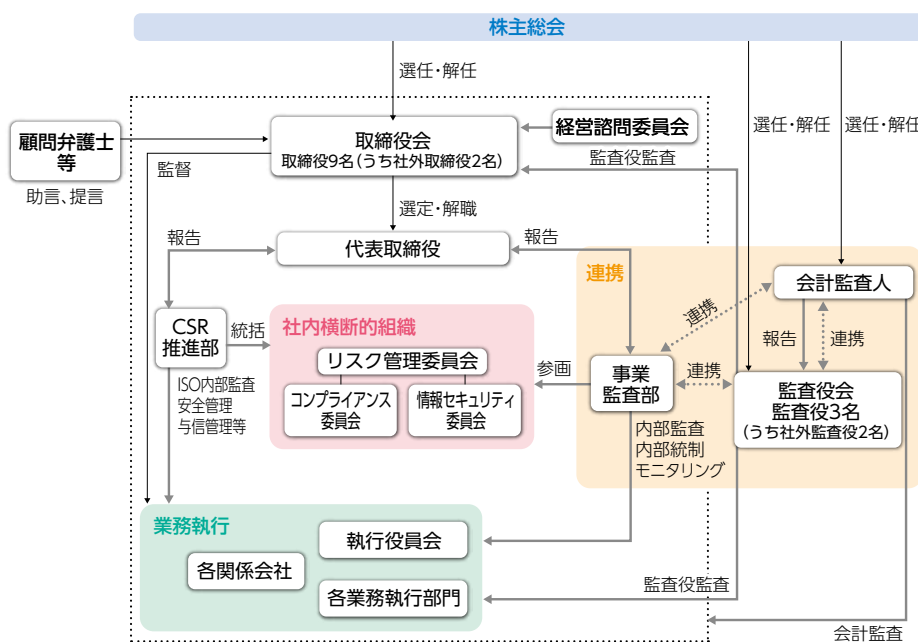
経営体制

タケエイグループでは経営の健全性、効率性および透明性を確保すべく、コーポレート・ガバナンスの充実およびコンプライアンスの強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

(株)タケエイの取締役会は社外取締役2名を含む9名の取締役で構成されており、取締役会規程に基づき経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、社外監査役2名を含む3名の監査役も取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況について、法令・定款に違反していないことのチェックを行うとともに、必要に応じて意見を述べています。常勤監査役は取締役会以外の重要な会議にも出席し、取締役等への意見聴取や資料の閲覧、主要な事業所への往査等を通じて取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

コーポレート・ガバナンス体制 2018年8月末現在



コンプライアンス推進体制

(株)タケエイではグループ横断的な視点からコンプライアンスを推進するため、「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ各社も含めた法令遵守の徹底に努めています。また、コンプライアンス違反の早期発見と是正、予防を図るため、コンプライアンス研修を行っているほか、社員がコンプライアンスに関する事項を連絡相談することができる窓口「コンプライアンス・ヘルプライン(内部通報制度)」を設置しています。

環境とのかかわり

タケエイグループでは事業活動を通じた持続可能な社会の構築に向けて「タケエイグループ環境基本方針」を策定し、環境推進体制を整備しています。また、グループ各社で環境目標を設定し、継続的な改善を図るべく取り組みを進めています。

● 環境基本方針

タケエイグループ環境基本方針

タケエイグループは、環境に携わる企業として、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、次の4つを活動テーマに掲げ積極的に取り組みます。

1. 資源循環型社会の実現に貢献します。
2. 低炭素社会の実現に貢献します。
3. 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。
4. 環境活動の推進体制を充実します。

タケエイグループ環境基本方針は、ホームページで全文を公開しています。

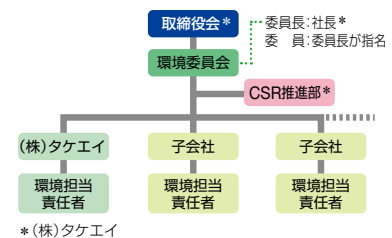
<http://www.takeei.co.jp/environment01.html>

● 環境推進体制

タケエイグループでは、地球環境の保全に配慮した企業活動に取り組むため、環境推進体制を整備しています。

グループ全体で環境活動を推進するため、(株)タケエイの代表取締役社長を委員長に環境情報の共有や協議を行う場として「環境委員会」を設け、さらにグループ各社に「環境担当責任者」を設置しています。

タケエイグループ環境推進体制



● マネジメントシステムの運用

タケエイグループでは、ISO14001やエコアクション21といった環境マネジメントシステムを導入しています。2017年に行われた外部審査では不適合はありませんでした。また、エコアクション21における審査でも不適合はありませんでした。事業に関連する環境法規制等についても、引き続き遵守を徹底していきます。

環境マネジメントシステム認証の取得状況

環境認証の種類	取得組織	取得(登録)年月
ISO14001	(株)タケエイ*1	2001年2月
	(株)北陸環境サービス*2	2004年7月
	(株)信州タケエイ	2001年12月
	富士車輛(株)*3	2001年3月
	(株)タケエイグリーンリサイクル*4	2007年6月
エコアクション21	イコールゼロ(株)	2001年3月
	(株)タケエイ東京リサイクルセンター	2007年9月
	(株)池田商店	2007年8月
	(株)タケエイメタル	2017年4月
	(株)ギプロ	2017年10月

*1 産業廃棄物の処理業務における営業部門、収集運搬部門、最終処分部門、管理部門、中間処理部門(川崎RC/四街道RC)

*2 本社および平栗工場

*3 本社 *4 本社、富士ヶ嶺工場

環境目標と実績

タケエグループでは、環境基本方針に基づき事業活動における環境目標を策定しています。年度末にはこの結果を分析・評価し、次年度の活動の改善に活かします。

2017年度 子会社における環境目標とその達成状況

目標達成 😊 目標に届かず 😞

項目	社名	目標設定内容	年度目標	実績	達成状況
リサイクル率の向上/ 最終処分量の低減	東北交易(株)	受入廃棄物の全量再生	再生利用率100%	受入廃棄物の全量再生を達成	😊
	イコールゼロ(株)	処理廃棄物の受入実績増加	月平均2,350t以上	月平均2,814t	😊
	(株)信州タケエ 諏訪リサイクルセンター	リサイクル率の向上	94.6%以上	94.8%	😊
	富士車輛(株)	廃棄物排出量の削減	一般および産業廃棄物の排出量 2016年度実績維持	6%削減	😊
CO ₂ 排出量の削減	(株)池田商店	CO ₂ 排出量の削減 電気使用量(工場)	190,000kWh以下	189,250kWh	😊
	(株)池田商店	CO ₂ 排出量の削減 軽油使用量(収集運搬車)	170,000ℓ以下	168,505ℓ	😊
	環境保全(株)	エコキャップ運動の取り組み によるCO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 削減量50kg以上	CO ₂ 削減量76.7kg	😊
	(株)北陸環境サービス	リサイクル工場の 最大デマンド値の低減	最大デマンド値 140kW以下	118.4kW	😊
	(株)北陸環境サービス	水処理施設の 最大デマンド値の維持	最大デマンド値 70kW以下	67.8kW	😊
	富士車輛(株)	電気使用量の維持	2016年度実績維持	6%増加 【未達理由:受注増の影響で工場の稼働が増加したため】	😞
	(株)信州タケエ 諏訪リサイクルセンター	燃料使用量(原単位)の削減	廃棄物受入量1tあたり 3.09ℓ以下	1.73ℓ/トン	😊
	(株)信州タケエ 安曇野リサイクルセンター	燃料使用量(原単位)の削減	RC生産量1tあたり 1.73ℓ以下	1.41ℓ/トン	😊
その他	(株)アースアプレイザル	環境教育の推進および 環境法規制等の遵守	・年2回の安全大会実施 ・環境法規制等の情報の 定期的発信	・年2回の安全大会実施 ・月1回程度の情報発信	😊
	東北交易(株)	場内使用水の 100%循環再利用	再利用率100%	場内使用水の循環 再利用100%実施	😊
	(株)ギプロ	環境配慮製品の 優先的購入の推進	事務用品をグリーン購入 適合品へ切り替える	既存事務用品の グリーン購入適合品 への切り替え完了	😊
	(株)タケエグリーンリサイクル	悪臭防止対策の実施	防臭剤(EM菌)を常時散 布する装置を設置する。	EM菌の散布徹底	😊
	(株)グリーンアローズ関東	近隣への環境配慮	清掃等近隣活動 毎月1回以上	毎月3回以上	😊
	(株)津軽バイオマスエナジー	事業を通じた 環境教育の推進	バイオマス発電の 地域への周知	ホームページによる周 知・案内、見学受入(55 団体・689名)、TV取材 受入を実施	😊
	(株)津軽バイオマスエナジー	発電所周辺の環境整備	毎月1回以上の清掃活動	11月のみ実施できず 【未達理由:11月の活 動内容を消火器使用訓 練に変更したため】	😞

※(株)タケエの環境目標については、P23~24 エコ・ファーストの約束をご覧ください。

タケエイグループの再資源化ソリューション

産業廃棄物処理・リサイクル事業

建設現場等
(廃棄物発生場所)



収集運搬

729,276t*1

建設現場や工場などから排出される産業廃棄物は収集され、リサイクル工場まで運搬されます。

発生した産業廃棄物の性状や量に適した車両で収集・運搬します。



中間処理

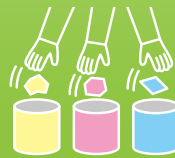
726,984t*2

リサイクル工場に運ばれた産業廃棄物は、人の手や機械・重機で選別し異物を取り除いた後、品目ごとにリサイクルに適した品質・ロットに整えられます。

混合廃棄物



手選別



手作業によりリサイクル品(廃プラスチック、紙くず、金属くず等)を抜き取り、選別する

機械選別



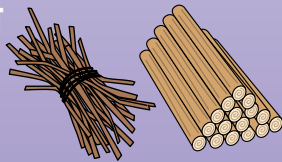
廃棄物の大きさ(サイズ)と重さ(比重)を振動と風力で選別する

破碎



リサイクルに適した大きさ(サイズ)にするため破碎する

未利用材



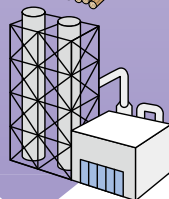
間伐材・りんご剪定枝等

139,206t

木質チップ加工工場



バイオマス発電所



発電

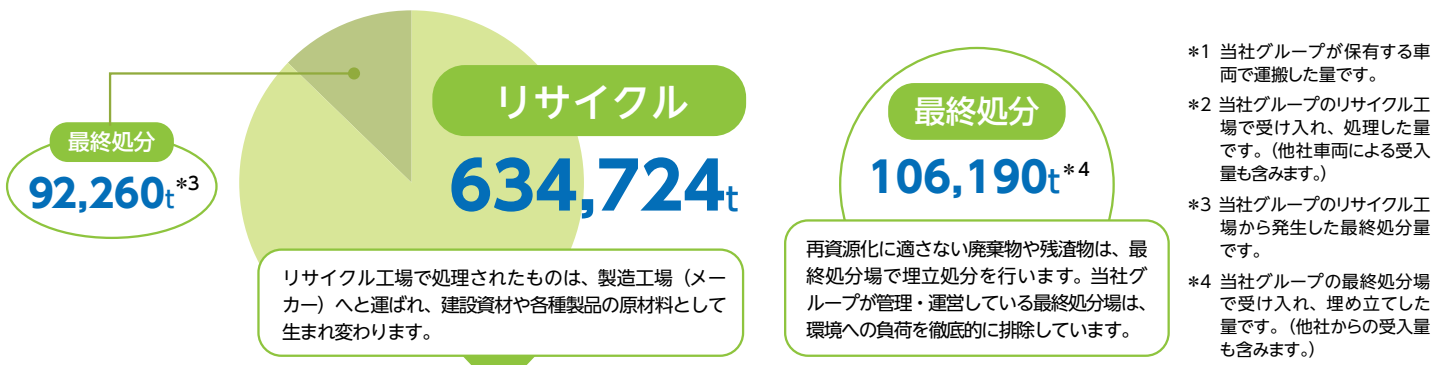
発電量

90,398MWh

(バイオマス発電と太陽光発電による売電量)

再生可能エネルギー事業

タケエグループは、建設現場等で発生する産業廃棄物を回収し、廃棄物の種類にあわせて適正・適切な処理を行うことで資源へと変えています。当社グループが行っている廃棄物の収集運搬・中間処理(リサイクル)・最終処分の流れを紹介します。



- *1 当社グループが保有する車両で運搬した量です。
- *2 当社グループのリサイクル工場です。(他社車両による受入量も含みます。)
- *3 当社グループのリサイクル工場から発生した最終処分量です。
- *4 当社グループの最終処分場で受け入れ、埋め立てした量です。(他社からの受入量も含みます。)

土木資材
再生砕石：
RC-40、砂品等

生産量 **373,363t**

破砕機で一定のサイズに砕かれたコンクリートや、機械選別でサイズを揃えた砕石・砂品等は、路盤材や埋め戻し材として生まれ変わります。

土木資材

グループ各社生産比率
(株)池田商店 43.6%、(株)タケエイ 39.0%、(株)信州タケエイ 13.1%、東北交機(株) 4.3%

バイオマス発電燃料、堆肥原料等

生産量 **63,951t**

破砕機で一定のサイズに砕かれた廃木材等は、発電用の燃料として利用されます。剪定枝等は破砕後に熟成・発酵させ堆肥として使用されます。

エネルギー

グループ各社生産比率
(株)タケエイ 53.7%、(株)タケエイグリーンリサイクル 41.8%、その他会社 4.5%

鉄・非鉄原料

生産量 **21,345t**

鉄骨やパイプ等の金属は分解・切断され、種類別に分けられます。製鉄メーカー等で原材料として利用され、再び鉄・非鉄製品となります。

鉄

グループ各社生産比率
(株)タケエイメタル 48.6%、(株)タケエイ 42.4%、(株)池田商店 3.9%、イコールゼロ(株) 2.9%、その他会社 2.2%

石膏ボード原料、セメント系固化剤原料

生産量 **68,600t**

石膏ボードは特殊な処理によって石膏粉と紙に分けられます。石膏粉は再び石膏ボードとして生まれ変わり、建材として使用されます。

石膏ボード

グループ各社生産比率
(株)ギプロ 68.7%、(株)グリーンアローズ関東 18.7%、(株)グリーンアローズ東北 12.5%、(株)信州タケエイ 0.1%

廃棄物発電・サーマルリサイクル燃料

生産量 **50,648t**

混合廃棄物の機械選別の過程で発生する軽い可燃系のもの(紙・プラスチック等)は、圧縮処理され、燃料として利用されます。

熱利用

グループ各社生産比率
(株)タケエイ 93.6%、その他会社 6.4%

セメント燃料・原料

生産量 **38,888t**

廃プラスチックや可燃物の中で品質基準を満たしたものは、破砕・圧縮等の処理が行われ、セメント等を製造する際の燃料として利用されます。

セメント

グループ各社生産比率
(株)タケエイ 95.0%、(株)グリーンアローズ東北 2.7%、(株)信州タケエイ 1.2%、(株)北陸環境サービス 1.1%

製紙原料

生産量 **8,083t**

ダンボールや石膏ボードの紙の部分は圧縮処理され、製紙メーカーで原材料として利用され、再びダンボール等の紙製品となります。

ダンボール

グループ各社生産比率
(株)ギプロ 54.8%、(株)タケエイ 27.6%、(株)グリーンアローズ関東 9.2%、(株)グリーンアローズ東北 6.2%、その他会社 2.2%

再生プラスチック原料

生産量 **5,930t**

塩ビ管やタイルカーペット等の廃材は、破砕・圧縮等の処理が行われます。塩ビ管等のプラスチック製品の原材料や、燃料として利用されます。

塩ビ管

グループ各社生産比率
(株)タケエイ 97.0%、(株)信州タケエイ 3.0%

製鉄副資材(エコ・フォーム)

生産量 **3,916t**

廃棄物処理の際に発生する粉じん(ホコリ)は、他の廃棄物と混ぜて固め、エコ・フォームとなります。製鉄工程の転炉において、泡立ちを防止するための添加材(フォーミング抑制材)として利用されます。

鉄

グループ各社生産比率
(株)タケエイ 100%

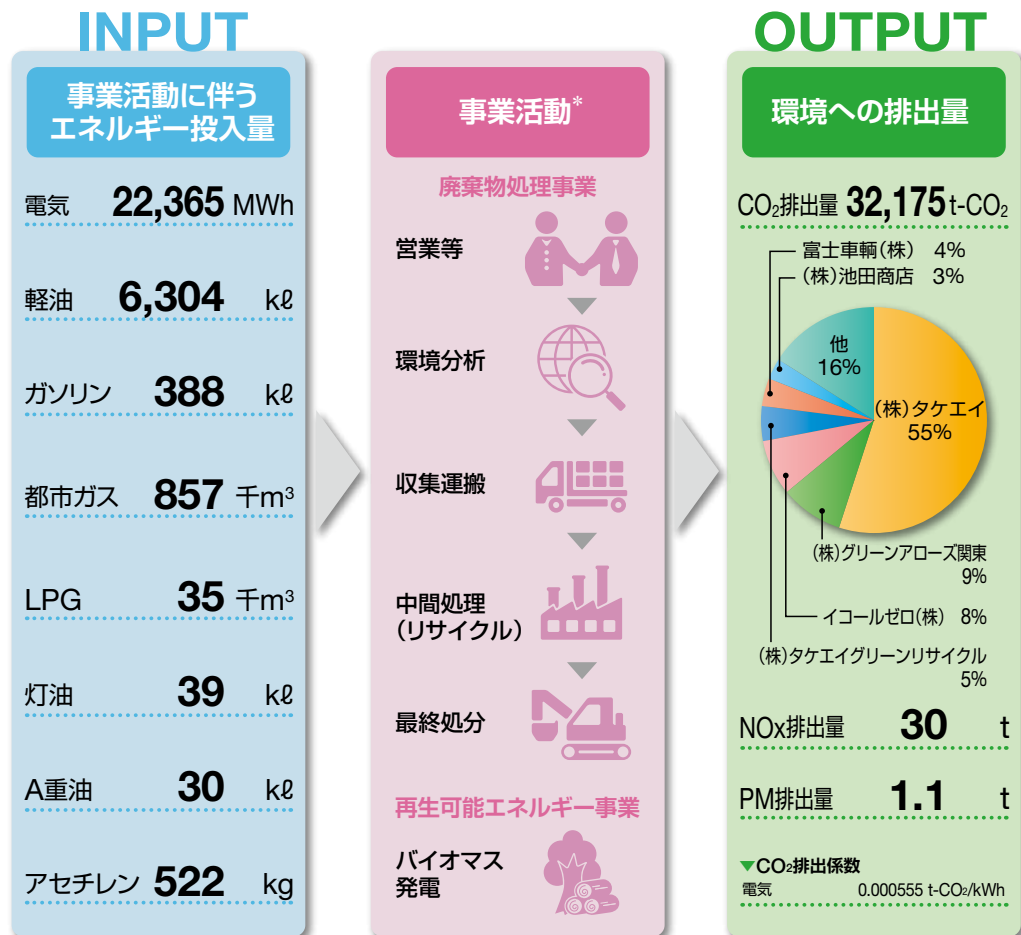
環境のために

事業活動に伴う環境負荷

タケエイグループは、廃棄物処理事業や再生可能エネルギー事業といった、事業活動全体におけるエネルギーの使用量および環境負荷を適切に把握し、環境負荷低減に向けた取り組みに活かしています。

● タケエイグループのマテリアルフロー

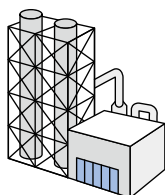
タケエイグループは、グループ各社の事業に伴うエネルギー使用量を把握・管理し、さまざまな省エネ活動に活かすことで環境負荷低減に取り組んでいます。



*収集運搬・中間処理(リサイクル)・最終処分およびバイオマス発電の詳細については、P19-20をご覧ください。

FIT発電

バイオマス発電



発電量
101,977MWh

タケエイグループでは、グループ各社の電気使用量を上回る量のFIT電気を創出しています。また環境負荷低減のため、2018年4月より順次、グループ各社の電気をFIT電気に切り替えていきます。

環境負荷低減活動

タケエイグループは、省エネルギーやCO₂削減に向けた取り組みを行うことで、自らの事業活動における環境負荷の低減を推進しています。事業活動と環境とのバランスに配慮することで、周辺の自然環境、生活環境への負荷低減を目指します。

● 収集運搬における取り組み

タケエイグループは、廃棄物の収集運搬に使用する車両を約440台保有しています。

(株)タケエイでは全ての車両にネットワーク型デジタルタコグラフを搭載しており、運行状況をリアルタイムに把握し、効率的な配車を行うことでCO₂排出量の削減につなげています。また、グループ各社においても、エコドライブの推進や環境配慮型車両への入れ替えといった取り組みを行うことで、CO₂排出量の削減に努めています。



車両にデジタルタコグラフを搭載

● 事業所における取り組み

タケエイグループでは、デマンド監視装置を用いて電気使用量を「見える化」し、ピークの抑制や省エネ対策に活用しています。

また、ハイブリッド型重機の導入や設備の効率的な稼働により、環境負荷低減を図っています。

富士車輛(株)では「ライトダウンキャンペーン」に参加し、キャンペーン中は、同社工場の屋内外の照明を消灯するなどの取り組みも行っています。

● オフィスにおける取り組み

タケエイグループは、オフィスでの電気使用量を削減するため、クールビズの実施や空調の温度管理等を行っています。

またWeb会議システムを使用することで、移動に伴うCO₂排出量を削減するなどの取り組みを行っています。

● エコアクション21の認証を取得しました

2017年4月に(株)タケエイメタル、同年10月に(株)ギプロがエコアクション21の認証を取得しました。エコアクション21は、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステムです。

また、(株)タケエイ東京リサイクルセンターおよび(株)池田商店は同認証を取得して10年目となり、エコアクション21中央事務局より感謝状をいただきました。引き続き、環境マネジメントシステムを活用し、事業全体を通じた環境負荷の低減に努めます。



エコアクション21登録証(ギプロ)

エコ・ファーストの取り組み

「エコ・ファースト制度」とは、企業が地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取り組みを環境大臣に対し約束する制度です。タケエイグループは、2008年11月に廃棄物処理業界として初めてエコ・ファースト企業の認定を受けました。2017年10月、エコ・ファースト制度実施規約に基づき「エコ・ファーストの約束」を更新しました。従来の廃棄物処理事業に関する取り組みに加え、当社の中期経営計画「VISION for 2020」で新たな事業の柱として掲げている再生可能エネルギー事業に関する取り組みも盛り込んだ約束となりました。



エコ・ファーストの約束 (更新書)

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成 29 年 10 月 31 日

環境大臣 中川 雅治 殿

株式会社タケエイ
代表取締役社長 山口 仁司

「総合環境企業」を目指すタケエイグループは、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、以下の取り組みを進めてまいります。

1 資源循環型社会の実現に貢献します。

- タケエイグループは事業領域と事業地域を拡大することで、廃棄物の処理に関するお客さまのさまざまな課題について、ソリューションサービスを提供していきます。
- 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、「建設廃棄物処理・リサイクル事業」の対応力強化に努めます。特に、東京・神奈川・千葉における3つのリサイクルセンターを有機的かつ一体的に運用することで、都市の再構築で排出が見込まれる大量の建設廃棄物の域内処理およびリサイクルに貢献してまいります。
- グループ全体で廃棄物の資源循環的利用を推進することで、循環型社会の促進に貢献します。特に廃棄物発電を行っている施設およびセメントメーカー等へ、発電燃料やセメント原燃料等となる廃棄物を供給します。供給量について2022年までに2015年比30%増を目指します。

2 低炭素社会の実現に貢献します。

- 現在タケエイグループで取り組んでいる再生可能エネルギー事業を今後さらに強化・拡大することで、温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制とエネルギー自給率の向上に寄与します。
- 再生可能エネルギー発電量について、2025年までに2015年比5倍増を目指すことで、低炭素社会の実現に貢献してまいります。
- 廃棄物を収集運搬する車両や工場で使用する重機を導入する際には、低燃費・低公害型の車両・重機を選定する取り組みを継続してまいります。また乗務員へのエコドライブの教育を徹底し、環境に優しい運転を継続して実施してまいります。

3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

- 地元行政や林業従事者などと連携し、地元で生産されたエネルギー資源を地元内で活用する「電気の地産地消」スキームに基づくバイオマス発電事業を、2025年までに4ヶ所で実施します。
- 里山づくり活動や清掃活動など、地域住民や地元行政と連携・協働して環境活動を推進します。
- タケエイグループの取り組みを、地域住民をはじめとするステークホルダーの皆さまに広く知っていただくため、工場見学を定期的を実施します。また、子どもたちがゴミの分別の知識を学ぶことができる環境学習の場を提供します。

タケエイグループは、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



● 2017年度タケエイグループ「エコ・ファーストの約束」の取り組みと実績

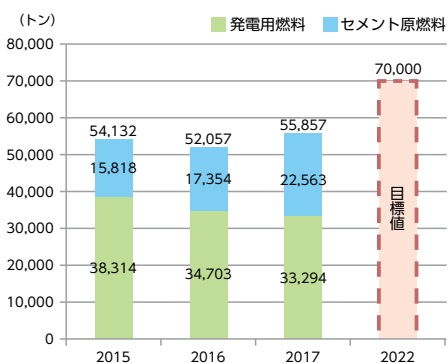
「エコ・ファーストの約束」について、2017年度の取り組み状況をご報告します。

1 資源循環型社会の実現に貢献します。

タケエイグループにおけるリサイクル量

634,724トン

発電燃料およびセメント原燃料の供給量推移

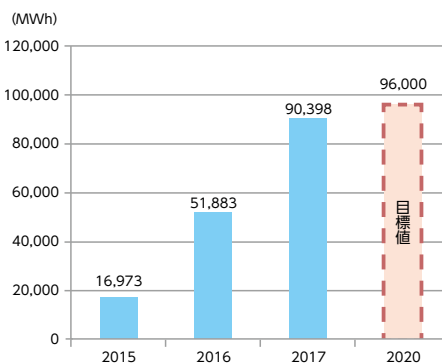


2 低炭素社会の実現に貢献します。

(株)タケエイにおける低公害車・低燃費車の保有台数

低公害車 236台
低燃費車 129台

再生可能エネルギーの発電量(売電)推移



3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

現在稼働中の
バイオマス発電事業

2か所

タケエイグループにおける
環境活動の実施状況

**P.31~32を
ご参照ください。**

タケエイグループにおける
施設見学の実施件数

**575件
(延べ 4,119名)**

● 第8回「『エコとわざ』コンクール」で「タケエイ賞」を贈呈

エコ・ファースト認定企業40社からなるエコ・ファースト推進協議会では、環境意識の啓発を目的として、毎年小中学生を対象とした「エコとわざ」コンクールを開催しています。

2017年度は、「未来の地球を守るために、私たちができるエコな暮らし」というテーマに対し、737点の応募がありました。タケエイグループは、その中から、神奈川県の小学生 小菅喜花さんが考えた「ふやそうよみどりは地球のお守りだ」をタケエイ賞(企業賞)として選定しました。

2017年12月には同コンクール表彰式が行われ、当社グループより小菅さんに賞状と記念品を贈呈しました。



第8回「『エコとわざ』コンクール」にて「タケエイ賞」を贈呈

お客さまのために

タケエイグループは、グループ各社の強みを活かした事業活動を展開することで、さまざまなサービスをお届けしています。廃棄物の適正処理・リサイクルにとどまらず、多様化するニーズに対応していくことで、お客さまにご満足いただけるよう努めています。

● 品質管理における取り組み

(株)タケエイでは、品質マネジメントシステム(ISO9001)の認証を取得しています。認証範囲である廃棄物の処理業務において、PDCAサイクルによる取り組みを行うことで品質向上を目指しています。

タケエイグループでは、当社のほか、環境保全(株)および富士車輛(株)においても同認証を取得しており、いずれも2015年版規格への移行を完了しています。



ISO9001認証

● 建設現場における取り組み

(株)タケエイでは、お客さまのご要望に応じて、建設現場における建設廃棄物の分別活動をサポートしています。分別活動の支援を専門に行うチームが定期的に現場を巡回し、廃棄物の分別・保管状況を確認し、お客さまのニーズに応じた改善方法をご提案しています。



さまざまな掲示物による分別方法のご案内

また、現場監督や作業員の方々へ向けた分別講習会も行っています。この講習会では、保管されている混合廃棄物の中からまだ分別できるものを取り分けていくデモンストレーションを行い、廃棄物の分別知識をより高めていただけるよう工夫しています。

現場における分別活動を支援することで、お客さまの環境負荷低減に貢献するとともに、リサイクル工場における中間処理・リサイクルの効率化にもつながっています。

● 環境展への出展

環境装置や特殊車両の開発・製造・販売を行う富士車輛(株)は、前年に引き続き2018年5月に東京ビッグサイトで開催された「2018NEW環境展」に出展しました。

展示ブースでは、STADLER社(ドイツ)製のバリスティックセパレーターや、富士車輛(株)が製作する風力選別機、チップングロータリー車といった製品を展示し、多くのお客さまにご覧いただきました。

同社では引き続き、資源循環型社会の形成に向けた新たな付加価値のある製品の提供に努めていきます。



分別の仕組みを実演解説

● 信州リサイクル製品に認定

2017年10月に(株)信州タケエイ安曇野リサイクルセンターで製造している再生砕石(RC40-0)が、長野県の「信州リサイクル製品」に認定されました。

この再生砕石(RC40-0)は、コンクリートガラおよびアスファルト・コンクリートガラを破碎し、異物を除去したうえで粒度を調整したもので、再生路盤材として使用されます。

今後も「信州リサイクル製品」の普及拡大に努めるとともに、資源循環型社会の形成に向け、良質なりサイクル製品の製造に努めていきます。



再生砕石(RC40-0)

信州リサイクル製品

長野県内で発生した廃棄物を利用し、同県内の事業所で製造加工され、所定の品質や安全性の基準を満たすリサイクル製品を「信州リサイクル製品」として認定しています。

(長野県ホームページより)

● 業務品質向上のための社内研修を実施

廃棄物処理法施行令改正に伴い、2017年10月1日から新たな廃棄物区分「水銀使用製品産業廃棄物」および「水銀含有ばいじん等」が定義されました。(株)タケエイではこの法改正に先がけ、2017年9月に本社および各事業所において水銀廃棄物の取り扱いに関する社内説明会を実施しました。営業部門を中心に約90名の社員が参加し、法改正の経緯や改正内容を学びました。

また、同社物流管理部では、新人乗務員に対しても、廃棄物処理法研修、マニフェストおよび伝票に関する研修、運転者適性診断といったさまざまな研修を行うことで、業務品質の向上を図っています。

● 契約書システムの導入

(株)タケエイでは、2017年4月より契約書の作成・管理システムを導入しました。これにより基幹システムと連携した契約書の一元管理が可能となり、お客さまからの問い合わせにスピーディーに対応できるようになりました。また、アクセス権の詳細な設定により、さらなるコンプライアンス強化も図っています。引き続き、より良いサービスを提供できるよう取り組んでいきます。

社員のために

タケエイグループは、社員一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮し、生き生きと働くことができる職場を目指しています。また、休暇制度の活用を推進し、働きやすい職場環境づくりに努めています。

● ワーク・ライフ・バランスの推進

(株)タケエイでは、年次有給休暇の付与のほか、育児休業や介護休業等の制度利用を推奨し、社員一人ひとりが仕事と家庭とのバランスを保ちながら働くことができるようサポートしています。

毎週水曜日にノー残業デーを設け定時での退社を推奨しているほか、2017年8月からはパソコンの長時間使用抑止システムを導入しました。このシステムにより労働時間を正確に把握することで、働き方の見直しや長時間残業の抑制につなげています。

		2015年度	2016年度	2017年度
有給休暇取得率		38%	39%	39%
産前産後休暇取得人数	男	0人	0人	0人
	女	2人	8人	4人
育児休業取得人数	男	0人	0人	0人
	女	2人	8人	4人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象

● 再雇用制度

(株)タケエイでは、定年退職者に対し、再雇用制度を設けています。長年培ってきた技能と経験を活かして活躍できるよう努めています。

		2015年度	2016年度	2017年度
再雇用人数	男	4人	8人	10人
	女	0人	1人	0人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象

● 資格取得支援制度

(株)タケエイでは資格取得支援制度を設け、受験費用の補助や報奨金の支給を行うことで社員の自己啓発を推進しています。環境社会検定(eco検定)をはじめ、業務を行う上で有用な資格の取得を幅広く推奨しており、2017年度はこの制度を利用して延べ71名の社員が資格を取得しました。

種別	資格名称	2017年度取得者数
国家資格	公害防止管理者、運行管理者、衛生管理者、基本情報技術者など	25名
公的資格	ビジネスマネージャー検定、個人情報保護士、簿記検定など	12名
民間資格	ビジネス会計検定試験、環境社会検定試験(eco検定)など	34名

● 社員に向けた教育・研修

(株)タケエイでは、さまざまな教育・研修を行うことで、社員の能力や知識の向上を図っています。新入社員研修や管理職研修といった階層別研修をはじめ、事業と関連が深い廃棄



RPFの製造工程を見学



新聞記事を用いた人権教育

物処理法にかかわる研修や情報セキュリティ研修といった専門教育も行っています。

また、新入社員に対してはエルダー制度を導入しています。年齢の近い若手社員が新入社員の実務指導や職場生活上のフォローを行うことで、新入社員に一日でもはやく新しい職場環境に馴染んでもらえるよう努めています。また、若手社員のコミュニケーションスキルや実務指導力の向上にもつながっています。

● 各種表彰制度

(株)タケエイでは、長年勤めてきた社員を慰労するとともに、今後も新たな活力をもって業務に臨めるような職場環境づくりを目的に、永年勤続表彰制度を設けています。2017年度は10年表彰が35名、20年表彰が15名、30年表彰が10名、40年表彰が1名となりました。

また、タケエイグループにおいては、連結収益向上に顕著な貢献をした部門・子会社等を対象とした表彰制度も設けています。



永年勤続表彰式(20年表彰者)

● タブレット端末の導入

(株)タケエイ営業部では、2017年5月よりタブレット端末の導入を開始し、東京・神奈川・千葉・住宅・戦略営業部の営業部員に端末を配布しました。メール対応等の事務作業を移動中や外出先でも行えるようになったことで、業務効率の向上による残業時間の短縮につながっています。同社では今後もモバイル端末の活用による営業支援の強化、およびワークスタイルの改善を図っていく予定です。

安全・衛生のために

タケエイグループでは、「安全はすべてにおいて優先する」という理念のもと安全衛生基本方針を定め、社員が安心して働くことができる職場づくりを推進しています。

● タケエイグループ安全衛生基本方針

タケエイグループは安全と衛生の確保を事業活動の基本ととらえ、社員が安心安全に働ける職場づくりのため、安全衛生基本方針を策定しています。これからも本方針に沿った活動を実施し、事故の防止に努めていきます。

タケエイグループ安全衛生基本方針

【理念】

「安全はすべてにおいて優先する」

作業や業務においては、リスクの削減を最優先して安全の確保を行う。

【基本方針】

無事故無災害を目的とし、リスク削減について以下を基本方針とする。

1. 法令や規程等を守ることによって、安全で衛生的な職場環境を形成する。
2. 技能の向上とその継承を図ることによって、安全作業と技術を身に付ける。
3. あらかじめ作業の有害・危険性を捉え、事前に安全衛生対策を講じる。

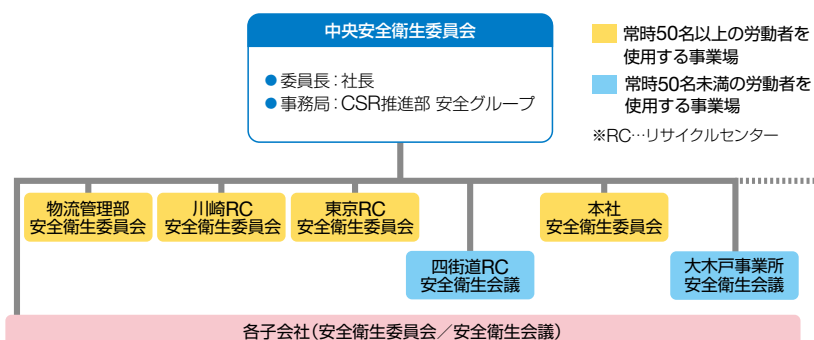
【行動指針】

1. 法令に従った管理を実施する。
2. 基本方針に従い期間的な目標を掲げ、その目標を達成するための計画と効果的な安全衛生活動を実施する。
3. 作業・業務に従事する一人ひとりが安全衛生を意識し行動する。

● タケエイグループ安全衛生推進体制

タケエイグループでは、職場の安全衛生を確保するため、中央安全衛生委員会を設け安全衛生推進体制を整備しています。中央安全衛生委員会はグループ全体の安全衛生に関する事項を協議する場として毎月開催しています。社員の労働災害の防止、健康の維持・増進や快適な職場づくりを推進するとともに、2017年からはテーマ別に実務を行う担当者間でディスカッションを行い、今後の取り組みについての情報共有の場としても活用されています。

安全衛生委員会組織図



● 労働安全衛生標語「(公社)全国産業廃棄物連合会安全衛生委員長賞」受賞

タケエイグループでは毎年度、社員やその家族から「安全衛生に関するスローガン」を募集し、安全衛生活動の啓発に努めています。

2017年には、(公社)全国産業廃棄物連合会の「労働安全衛生標語」に応募した、(株)タケエイ 山中慎竜さんの作品「ヒヤリで済んだあの教訓 心に刻んで安全作業」が、安全衛生委員長賞に選定されました。この「労働安全衛生標語」は、同法人が策定する労働災害防止計画の普及を目的とするものです。2017年11月に高知県で開催された「第16回産業廃棄物と環境を考える全国大会」にて表彰式が行われ、山中さんには表彰状と副賞が授与されました。



「安全衛生委員長賞」を受賞

● 安全衛生パトロール

(株)タケエイの各事業所では、年末年始無災害運動期間中や毎月1回行われる中央安全衛生委員会の際に、役員による安全パトロールを実施しています。これは現場における安全衛生管理状況を把握し、まだ見逃されている危険を未然に取り除くと同時に、好事例の水平展開を目的としています。また、経営トップの安全に対する姿勢を現場作業員に伝えることで、安全意識の高まりに寄与しています。



安全パトロール

● 健康管理活動

(株)タケエイでは、企業にとって資本となる社員の心身の健康に配慮し、安心して働くことができるように、年に1回健康診断とストレスチェックを実施しています。2017年度健康診断の受診率は100%でした。健康診断、ストレスチェックの結果は、職場の環境改善などに活用しています。また(株)タケエイ本社では、全国労働衛生週間の際に社員の健康意識を高める活動の一環として、体組成計を設置するなどの健康管理活動も推進しています。



全国労働衛生週間に体組成計を設置

地域・社会とのかかわり

タケエイグループは事業活動を通しての社会貢献はもとより、良き企業市民として、積極的に地域社会とコミュニケーションを深め、行動していくことを目指しています。さまざまな活動を通じて、地域の皆さまの当社グループに対する理解を深めていただくだけでなく、地域社会の一員としてともに成長・発展に貢献していきます。

● 環境学習の場を提供しました

タケエイグループでは、地域や社会の将来を支える子どもや若者を対象として、工場見学や職場体験、インターンシップの受け入れなど、さまざまな活動を各事業所で行っています。

引き続き、地域の皆さまに当社グループの事業活動への理解をより深めていただく場を提供していきます。



(株)信州タケエイにおける小学生の工場見学

2017年度に実施した主な地域・社会との交流活動は以下のとおりです。

(株)信州タケエイ	2017.10	地元杉菜池地区の小学生によるリサイクル工場見学
イコールゼロ(株)	2017.7	(一社)長野県資源循環保全協会が主催する産廃夏休み親子体験教室
(株)タケエイ 東京リサイクルセンター	2017.8	(公財)東京都環境公社が主催するスーパーエコタウン親子見学会
	2017.10	親子見学会(山梨県甲斐市)
(株)津軽バイオマスエナジー	2017.8	青森県立弘前南高等学校にて環境教育講演
(株)花巻バイオマスエナジー 花巻バイオチップ(株)	2017.8	岩手大学の学生による施設見学
	2017.10	岩手県立黒沢尻工業高等学校の学生(23名)によるインターンシップ

● 「横浜型地域貢献企業」に認定、「地域未来牽引企業」に選定されました

2017年4月、横浜市に本社をおく(株)池田商店が「横浜型地域貢献企業」として認定されました。この認定は横浜型地域貢献企業認定制度に基づくもので、地域を意識した経営を行うとともに、本業およびその他の活動を通じて、環境保全活動、地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業を、一定の基準の下に「横浜型地域貢献企業」として認定しその成長・発展を支援する制度です。

2018年3月には、(株)津軽バイオマスエナジーが経済産業省より「地域未来牽引企業」として選定されました。地域の特性を活かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより、地域の経済成長を力強く牽引する事業を積極的に展開していることから選定されるものです。(同社の取り組みについては、特集記事(P.9~14)もご参照ください。)

タケエイグループでは今後も、地域社会の発展に貢献できるよう努めていきます。



「横浜型地域貢献企業」認定証



「地域未来牽引企業」選定

● 清掃活動に参加しました

タケエイグループでは、地域社会に貢献するための取り組みとして、事務所や工場周辺の清掃活動を定期的に行っています。また、地元自治体主催の清掃活動にも積極的に参加し、地域環境の美化に取り組んでいます。

(株)タケエイでは、毎年4月と12月に本社がある港区が主催する「港区クリーンキャンペーン」に参加しています。2017年4月には、3か年継続してキャンペーンに参加していることに対して、地区生活安全・環境美化活動推進協議会より感謝状が贈呈されました。



港区クリーンキャンペーンにて感謝状をいただきました

その他、2017年度に参加した主な清掃活動は以下のとおりです。

(株)タケエイ	2017.4.12	港区クリーンキャンペーン(港区主催)
	2017.5	多摩川河川敷清掃活動 ~グリーンアクションたまがわ~ (大田区主催)
	2017.12	殿町夜光クリーン大作戦(川崎市主催)
(株)池田商店	2017.12	小川アメニティ上流および保土ヶ谷バイパスの清掃
(株)北陸環境サービス	2017.4~10	平栗こいの森 定期清掃活動(月1回)
	2017.11	内川里山美化キャンペーン
(株)信州タケエイ	2017.6.10	杉菜池地区春/秋の土手草刈・側溝の泥上げ協力
	2017.6	エコ・ウォーク参加(塩尻市主催)
	2017.8.9	諏訪湖花火大会/新作花火大会ごみ分別指導、道路清掃協力
東北交易(株)	2017.4	立子山野城地区道造り作業(清掃活動)
富士車輛(株)	2017.5	ごみゼロ大作戦(守山市主催)
(株)津軽バイオマスエナジー	2017.4	平川市市民一斉大清掃(平川市主催)
(株)花巻バイオマスエナジー、 花巻バイオチップ(株)	2017.4.12	工業団地クリーン作戦
(株)田村バイオマスエナジー	2017.4	さくらの里クリーンアップ作戦

● 「東北・みやぎ復興マラソン2017」にボランティアとして協力しました

2017年10月に開催された「東北・みやぎ復興マラソン2017」において、(株)タケエイ 東北支店および(株)グリーンアローズ東北の社員有志が、ボランティアスタッフとして大会運営に協力しました。このマラソン大会は被災地の復興に寄与することを目的として開催されたもので、当社グループも被災地の復興に役立ちたいという想いに賛同し、ボランティア活動を行いました。

事業ハイライト

福島県相馬市の事業用地を取得

2017年6月、(株)タケエイは、福島県相馬市にある約85,000坪の事業用地を取得しました。本事業用地では、タケエイグループが培ってきた再資源化技術を活かしたリサイクルプラント構想の具体化を図るとともに、当社グループの東北生産拠点として機能を集約し、生産体制の効率化を進めていく予定です。

また、本事業用地の一部を使用して、建設廃棄物由来の廃プラスチックを利用した発電用燃料である高品質RPF(廃プラスチック固形化燃料)を製造する技術の開発を進めます。従来RPF製造に不向きとされている建設廃棄物から高品質なRPFを製造し、燃料として廃棄物発電を行うことで、安価かつクリーンなエネルギーを創出することができます。さらに、この電気を地元で使用してもらうことで、地産地消型の発電モデルの確立を目指します。なお、本事業に対しては、福島県における「平成29年度地域復興実用化開発等促進事業費補助金」が交付されました。この補助金を有効利用し、技術開発を進めていきます。



福島県相馬市に取得した事業用地(プラント解体・整備中)

秋田グリーン電力(株)の発電所施設が着工

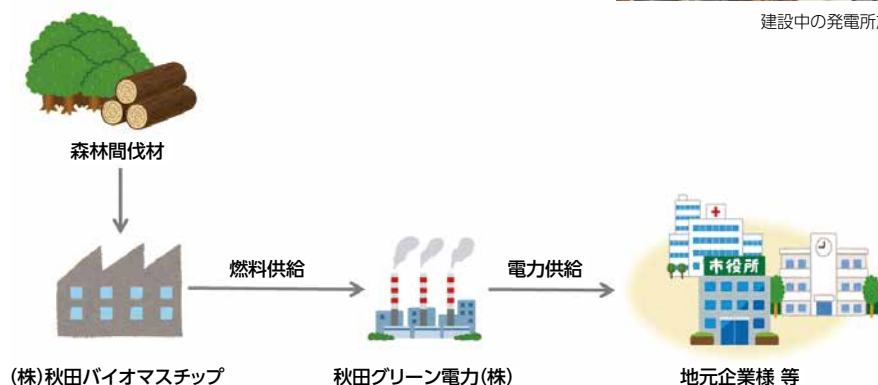
2017年10月、秋田県大仙市において、秋田グリーン電力(株)の発電所施設の建設工事を開始しました。同社では、これまで有効活用されてこなかった木材(低質材・林地残材および端材・樹皮など)を活かした木質バイオマス発電を行います。

また、同社は、秋田県より「林業・木材産業関係施設整備事業(木質バイオマス発電事業施設資金融通事業)事業者」に選定されており、未利用林地残材の燃料化プロセスを通じて、森林の有効活用や地域林業・地域経済の振興を推進していきます。

当発電所の設置工事完了は2018年末を予定しており、2019年春頃より営業運転の開始を計画しています。発電能力は7,050kW(一般家庭約15,000世帯の年間消費電力量に相当)を見込んでおり、創出した電力は東北電力(株)や小売電気事業者に売電する予定です。



建設中の発電所施設(秋田グリーン電力(株))



事業拠点 (2018年8月末現在)

(株)タケエイ

- ① 本社:東京都港区
- ② 東北支店:宮城県岩沼市
- ③ 福島営業所:福島県相馬市
- ④ 相馬事業所開設準備室:福島県相馬市

⑤ **東京リサイクルセンター**
混合廃棄物のリサイクル工場
[東京都大田区]

⑥ **川崎リサイクルセンター**
混合廃棄物のリサイクル工場
[神奈川県川崎市]

⑦ **塩浜リサイクルセンター**
積替保管施設
[神奈川県川崎市]

⑧ **四街道リサイクルセンター**
混合廃棄物のリサイクル工場
[千葉県四街道市]

⑨ **成田最終処分場**
安定型最終処分場
[千葉県成田市]

⑩ **大木戸最終処分場**
安定型最終処分場
[千葉県千葉市]

⑪ **環境保全(株)**
計量証明事業、環境影響調査等
[本社:青森県平川市
支店:宮城県仙台市、東京都港区]

⑫ **(株)津軽バイオマスエネルギー**
バイオマス発電事業
[青森県平川市]

⑬ **(株)津軽あつぷるパワー**
小売電気事業
[青森県平川市]

⑭ **(株)津軽エネベジ**
熱エネルギーを
利活用した農業
[青森県平川市]

⑮ **(株)花巻バイオマスエネルギー**
バイオマス発電事業
[岩手県花巻市]

⑯ **花巻バイオチップ(株)**
バイオマス燃料製造事業
[岩手県花巻市]

⑰ **(株)花巻銀河パワー**
小売電気事業
[岩手県花巻市]

⑱ **秋田グリーン電力(株)**
バイオマス発電事業
[秋田県大仙市]
〈設置準備中〉

⑲ **(株)大仙こまちパワー**
小売電気事業
[秋田県大仙市]
〈設置準備中〉

⑳ **(株)グリーンアローズ東北**
廃石膏ボードのリサイクル工場
[宮城県岩沼市]

㉑ **東北交易(株)**
汚泥・燃えがら・ばいじん・鉱さい等の
リサイクル工場
[福島県福島市]

㉒ **(株)田村バイオマスエナジー**
バイオマス発電事業
[福島県田村市]
〈設置準備中〉

㉓ **(株)ギプロ**
廃石膏ボードのリサイクル工場
[埼玉県八潮市]

(株)タケエイエナジー&パーク

㉔ 太陽光発電事業
[千葉県成田市]

㉕ パークゴルフ場運営
[千葉県千葉市]

㉖ **(株)アースアプレイザル**
環境調査、
エンジニアリングレポート、
不動産鑑定業
[東京都千代田区]

㉗ **(株)T・Vエナジー
ホールディングス**
再生可能エネルギー事業への
投融资・運営
[東京都港区]

㉘ **(株)池田商店**
廃コンクリート・鉱さい等のリサイクル工場
[神奈川県横浜市の]

㉙ **(株)グリーンアローズ関東**
廃石膏ボードのリサイクル工場
[神奈川県横須賀市]

㊀ **(株)横須賀バイオマスエナジー**
バイオマス発電事業
[神奈川県横須賀市]
〈設置準備中〉

㊁ **(株)門前クリーンパーク**
管理型最終処分場
[石川県輪島市]
〈設置準備中〉

㊂ **(株)北陸環境サービス**
管理型最終処分場
[石川県金沢市]
廃プラスチックのリサイクル工場
[石川県金沢市]

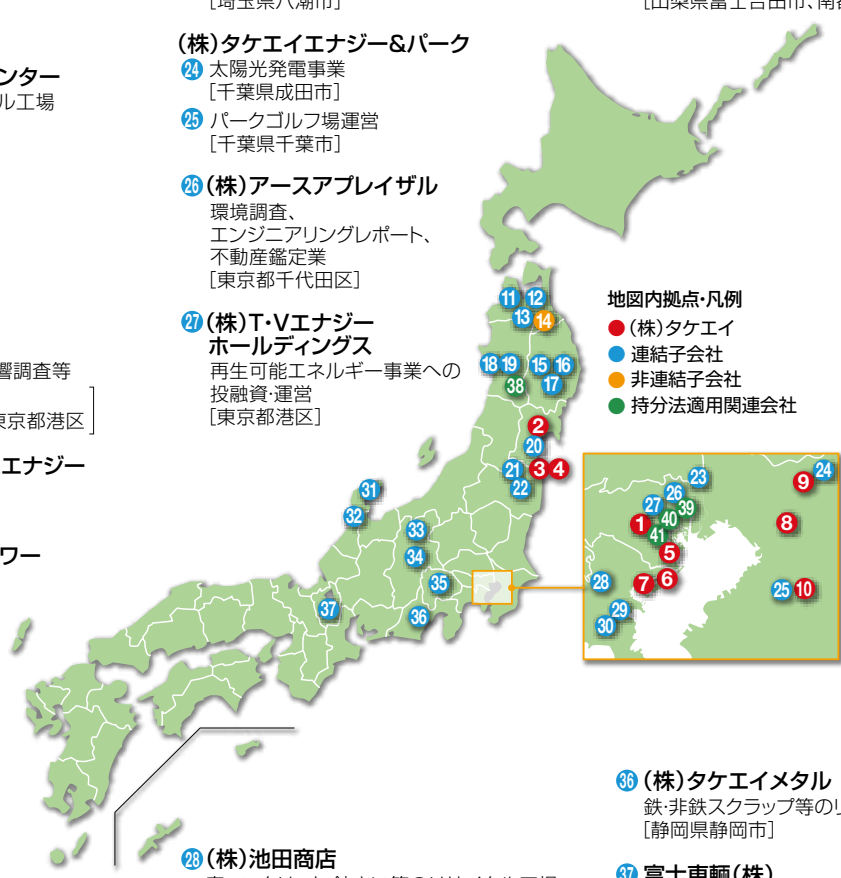
㊃ **イコールゼロ(株)**
廃酸・廃アルカリ等のリサイクル工場
[長野県長野市]

㊄ **(株)信州タケエイ**
混合廃棄物のリサイクル工場
[長野県諏訪市]
廃コンクリート等のリサイクル工場
[長野県安曇野市]
解体工事
[長野県松本市]
安定型最終処分場
[長野県塩尻市]

㊅ **(株)タケエイグリーンリサイクル**
剪定枝のリサイクル工場、堆肥(有機)製造・販売
[山梨県富士吉田市、南都留郡]

地図内拠点・凡例

- (株)タケエイ
- 連結子会社
- 非連結子会社
- 持分法適用関連会社



㊆ **(株)タケエイメタル**
鉄・非鉄スクラップ等のリサイクル工場
[静岡県静岡市]

㊇ **富士車輛(株)**
環境装置・環境プラント・
特殊車両の開発・製造・販売
[本社工場:滋賀県守山市
支店:東京都港区、大阪府大阪市]

㊈ **クマケン工業(株)**
有害汚染土壌処理剤・汚濁水処理剤の
開発・製造・販売等
[秋田県横手市]

㊉ **(株)トップランニングJAPAN**
アスベスト除去工事、解体工事等
[東京都中央区]

㊀ **(株)グリーンアローズホールディングス**
廃石膏ボードリサイクル事業への投資
[東京都港区]

㊁ **(株)V・Tエナジーマネジメント**
バイオマス発電所の運転・維持管理
[東京都港区]



「タケエイグループCSR報告書2018」アンケート

株式会社タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ 行

FAX.03-6361-6839

「タケエイグループCSR報告書2018」をお読みいただき、ありがとうございました。

今後の活動や本誌をより充実させるため、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- | | | | |
|--|----------------------------------|---|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> タケエイグループ事業所の近隣の方 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 行政機関 | <input type="checkbox"/> 調査・研究機関 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSR・環境担当者 | <input type="checkbox"/> 協力会社 | <input type="checkbox"/> タケエイグループ社員 | |
| <input type="checkbox"/> タケエイグループ社員の家族 | <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q2 本報告書を何でお知りになりましたか？

- | | | |
|---|--|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> タケエイグループ社員から入手 | <input type="checkbox"/> タケエイグループ事業所・工場への訪問時 | |
| <input type="checkbox"/> タケエイホームページ | <input type="checkbox"/> 説明会、セミナー、展示会等 | <input type="checkbox"/> その他() |

Q3 本報告書は読みやすかったですか？

- 読みやすい 読みにくい

その理由(複数回答可)

- | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> レイアウトが見やすい | <input type="checkbox"/> レイアウトが見にくい | <input type="checkbox"/> 情報量が多い | <input type="checkbox"/> 情報量が少ない |
| <input type="checkbox"/> 文字が大きい | <input type="checkbox"/> 文字が小さい | <input type="checkbox"/> イラスト・写真が多い | <input type="checkbox"/> イラスト・写真が少ない |
| <input type="checkbox"/> その他() | | | |

Q4 タケエイグループのCSR活動への取り組み・方針について、ご理解いただけましたか？

- 十分に理解し、期待している 理解できた あまり理解できない 期待もできず、理解もできない

Q5 下記A～Cの質問に該当する項目番号を選んでご記入ください(それぞれ3つまで)。

- A** 特に興味を持たれた記事は? () **B** 説明が不十分と感じた記事は? () **C** 理解できなかった記事は? ()

- | | | |
|---------------------|------------------------|-----------------|
| ① 経営理念・会社概要・事業概要 | ② トップメッセージ | |
| ③ タケエイグループの価値向上プロセス | ④ 座談会: バイオマス発電スキーム | |
| ⑤ タケエイグループのCSR | ⑥ 経営体制 | ⑦ 環境とのかかわり |
| ⑧ 環境目標と実績 | ⑨ タケエイグループの再資源化ソリューション | |
| ⑩ 事業活動に伴う環境負荷 | ⑪ 環境負荷低減活動 | ⑫ エコ・ファーストの取り組み |
| ⑬ お客さまのために | ⑭ 社員のために | ⑮ 安全・衛生のために |
| ⑯ 地域・社会とのかかわり | ⑰ 事業ハイライト | ⑱ 事業拠点 |

Q6 本報告書やタケエイグループの活動に期待すること、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

()

◆ご協力ありがとうございました。ご回答内容は、特定の個人を識別することができない統計情報として集計・分析・活用させていただきます。



株式会社タケエィ

〒105-0011 東京都港区芝公園 2丁目 4番 1号 A-10階

お問合せ先：CSR推進部 ISO推進グループ

TEL.03-6361-6836 FAX.03-6361-6839

<http://www.takeei.co.jp>

